

2020年2月14日

2020年3月期第3四半期 決算説明補足資料

センサで世界を測る、未来を拓く。

OHIZUMI

株式会社大泉製作所

売上減少及び電動化量産等の先行投資により減収減益

- 継続する中国市況等悪化の影響で売上高は前年同期比減少
- 中計達成に向けて、2次電池用量産ラインの立上げ、新焼成炉の稼働開始
- 空調VE^{*1}品の原価低減効果で減益を一部カバー

成長分野の電動化、5G用は堅調に推移

- 電動化領域の新規製品は量産開始、新規受注も成約
- 5G普及期に向け需要が拡大、光通信用売上が伸長

通期業績予想は据え置き、COVID-19^{*2}の感染拡大影響に注視

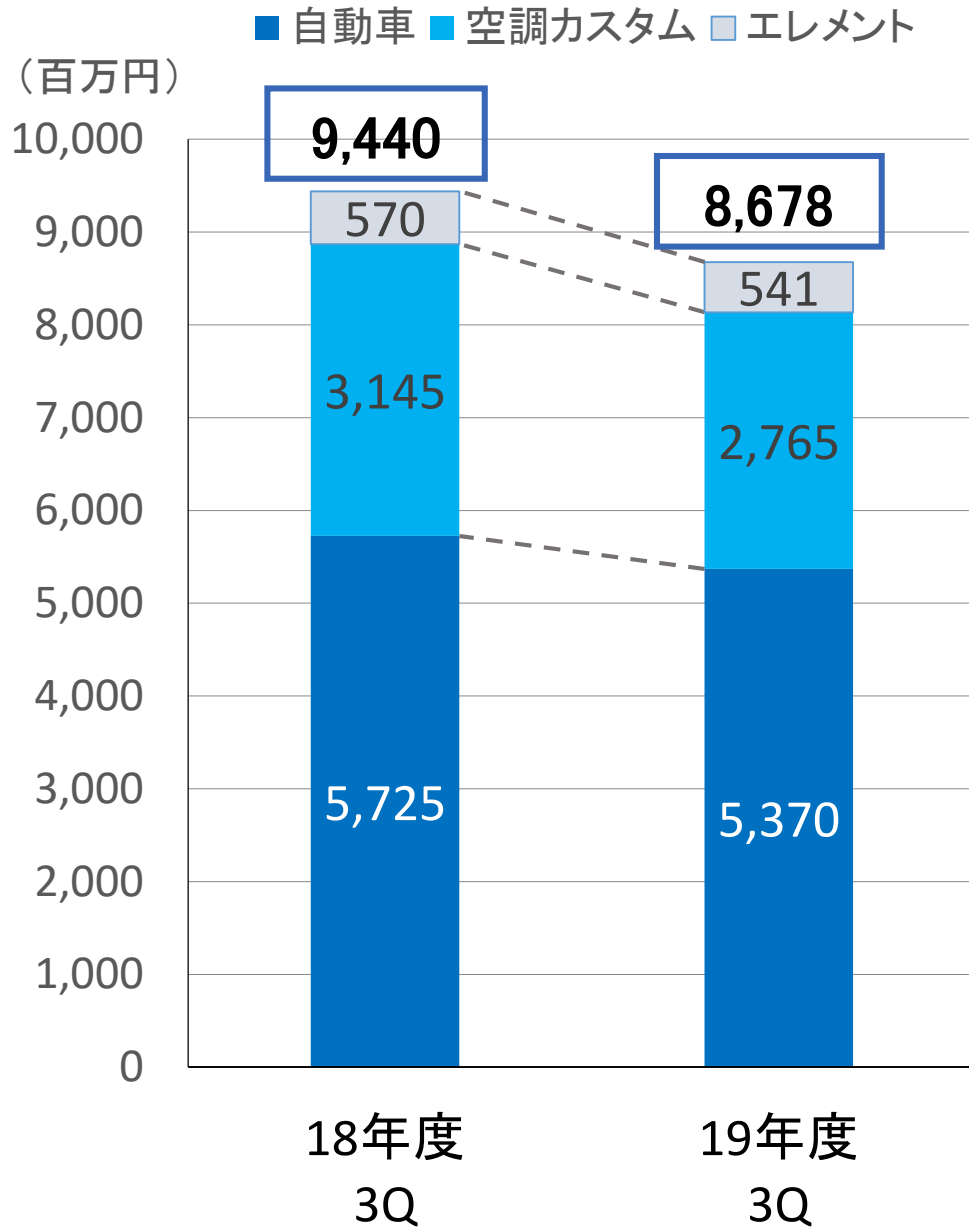
- COVID-19対策本部を設置、情報を収集し対応策を実施中
- 業績予想にはCOVID-19の感染拡大による影響は織り込まず、据え置く

*1 Value Engineeringの略、製品の機能価値を低下させずにコストダウンを実現するための手法

*2 2019年12月中国で発生した新型コロナウイルスによる感染症

単位:百万円

	18年度第3四半期		19年度第3四半期		
	実績	構成比	実績	構成比	前年同期比
売上高	9,440	—	8,678	—	△8.1%
営業利益	622	6.6%	376	4.3%	△39.5%
経常利益	670	7.1%	323	3.7%	△51.7%
四半期純利益	477	5.1%	236	2.7%	△50.5%



事業	前年同期比 (百万円)	増減率	増減コメント
全体	△762	△8.1%	<ul style="list-style-type: none"> ●第2四半期に続き中国市場低迷の影響により減収 ●人民元、米ドルの円高により為替換算額が減
エレメント	△28	△4.9%	<ul style="list-style-type: none"> ●5G用は需要増加とシェア拡大の両輪で増収(+162.3%) ●既存品は中国の自動車、家電用が減収
空調カスタム	△380	△12.1%	<p>【空調用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ASEAN販売が好調継続 ●国内は天候不順、増税影響により減収 ●市場低迷により中国向けが減収 <p>【カスタム部品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中国市場低迷により工作機用は減収が続く
自動車	△354	△6.2%	<ul style="list-style-type: none"> ●電動化領域は新規立ち上げにより増収(+14.8%) ●既存品は中国、インドの市場低迷により減収

- 日本は中国向け自動車の生産減及び天候不順と増税影響による空調販売不振で減収
- 中国は市場の低迷により全ての事業で減収
- ASEANはインド向け自動車が増加するも、欧州向け空調用の増加で増収

(単位:百万円)

エリア	19年度3Q 売上高	エリア別 構成比	前年同期比	増減率
日本	5,111	58.9%	△ 373	△ 6.8%
中国	1,282	14.8%	△ 344	△ 21.2%
ASEAN	1,238	14.3%	+ 44	+ 3.7%
その他	1,047	12.0%	△ 89	△ 8.5%
合計	8,678	100.0%	△ 762	△ 8.1%

- 空調VE品が製造原価低減に貢献するも、下記要因により前年同期比減益
 - ・前年同期比減収による影響
 - ・2次電池用の量産ライン立上げ及び新焼成炉の稼働により、償却費・労務費が増加
- 営業外収支は前年同期比円高の影響で為替差益が減少

(単位:百万円)

	18年度		19年度		
	第3四半期	構成比	第3四半期	構成比	前年同期比
売上高	9,440	100.0%	8,678	100.0%	△8.1%
売上総利益	2,016	21.3%	1,769	20.4%	△12.3%
営業利益	622	6.6%	376	4.3%	△39.5%
営業外収支	48	0.5%	△52	△0.6%	—
うち、支払利息	△38	△0.4%	△52	△0.6%	—
うち、為替差損益	67	0.7%	2	0.0%	—
経常利益	670	7.1%	323	3.7%	△51.7%
法人税等	△193	△2.0%	△87	△1.0%	—
当期純利益	477	5.1%	236	2.7%	△50.5%

貸借対照表

- 地産地消を目的とした生産移管及びリスク対応のための在庫増加
- 2次電池用量産ライン及び新焼成炉等の設備投資と、海外子会社のIFRS適用により固定資産が増加
- 設備投資資金借入と在庫増加により有利子負債が増加
- 自己資本比率は25.3% (19年3月末比+1.0ポイント)

(単位:百万円)

資産の部	19年3月	19年12月	増減
流動資産	6,192	6,060	△132
現金預金	1,448	1,466	17
売上債権	2,505	2,136	△369
棚卸資産	2,123	2,348	225
その他	115	108	△6
固定資産	2,735	3,029	294
有形固定資産	2,393	2,632	239
無形固定資産	60	113	53
投資その他	280	282	2
資産合計	8,928	9,090	162

負債・純資産の部	19年3月	19年12月	増減
流動負債	3,169	3,132	△36
仕入債務	1,244	1,156	△87
有利子負債	942	1,176	233
その他	981	800	△181
固定負債	3,558	3,624	65
有利子負債	2,737	2,892	155
その他	821	731	△90
負債合計	6,727	6,757	29
純資産合計	2,200	2,332	132
株主資本	1,957	2,126	169
その他	242	205	△36
負債・純資産合計	8,928	9,090	162

- 19年度通期業績予想は、2019年11月の公表値を据え置く

単位：百万円

	19年度		19年度第3四半期		
	予想	構成比	実績	構成比	進捗率
売上高	11,958	—	8,678	—	72.5%
営業利益	535	4.5%	376	4.3%	70.3%
経常利益	478	4.0%	323	3.7%	67.6%
当期純利益	354	3.0%	236	2.7%	66.7%

※COVID-19の感染拡大に伴う影響については、現在精査中であり、当期の業績予想に織り込んでおりません

注意事項

この資料に掲載されている、株式会社大泉製作所の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的
事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。これらは、現在入手可能な情報から得ら
れた株式会社大泉製作所の経営者の判断に基づいており、内容の正確さについては細心の注意を
払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関しまして、当社は一切責任を負
うものではありませんのでご了承ください。投資に関する決定は利用者ご自身のご判断において行
われるようお願いいたします。

センサで世界を測る、未来を拓く。

OHIZUMI

IR お問い合わせはホームページからお願いします。

<http://www.ohizumi-mfg.jp/contact/>